

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-514136 (P2001-514136A)
 【公表日】平成 13 年 9 月 11 日 (2001.9.11)
 【出願番号】特願 2000-508593 (P2000-508593)
 【国際特許分類】

B 6 5 D 47/08 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 47/08 M

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 8 月 3 日 (2005.8.3)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 容器用の流出装置であって、その流出装置は後方の第 1 部分と、ピボット点を備えた前方の第 2 部分と、装置を容器と一体に保持するための機構と、バイアス機構とからなり、最初の非流出状態では第 2 部分が容器と気密に結合しており、曲がり易い第 1 ヒンジが第 1 部分と第 2 部分との間に設けられ、ピボット点が第 1 ヒンジから離れているので、使用に際して第 1 部分を押圧すると、曲がり易い第 1 ヒンジが曲がり、第 2 部分の少なくとも一部が最初の非流出状態から第 2 の流出状態へ移行し、第 1 部分の押圧を止めると、バイアス機構が第 1 部分と第 2 部分とを最初の非流出状態に戻すことを特徴とする、流出装置。

【請求項 2】 第 2 ヒンジが、第 1 部分の最後部の端に形成されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の流出装置。

【請求項 3】 第 1 部分が湾曲した平面状のものであることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の流出装置。

【請求項 4】 第 1 部分が親指その他の指を入れる窪みを持っていることを特徴とする、請求項 1 - 3 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 5】 装置が、第 1 部分と第 2 部分とを持った第 1 本体部と、さらに好ましくはこの装置を容器と一体に保持する機構を持った第 2 本体部とからなることを特徴とする、請求項 1 - 4 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 6】 第 1 本体部と第 2 本体部とが、第 3 ヒンジによって互いに一体に保持されていることを特徴とする、請求項 5 に記載の流出装置。

【請求項 7】 第 2 部分がピボット点に第 1 突起と第 2 突起とを持ち、それらの突起が、第 2 本体部に形成された対応する第 1 窪みと第 2 窪みの中に嵌まり込むことができることを特徴とする、請求項 5 又は 6 に記載の流出装置。

【請求項 8】 第 2 部分がシール機構を持ち、第 2 部分が最初の状態にあるときに、シール機構が装置と流出孔との間にシールを形成することを特徴とする、請求項 5 - 7 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 9】 流出孔が第 2 本体部上に形成されていることを特徴とする、請求項 5 - 8 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 10】 シール機構がその最先部分に逆 V 字状形のスロットを備えていることを特徴とする、請求項 8 に記載の流出装置。

【請求項 11】 流出装置がさらにアンチグラブ装置を含み、アンチグラブ装置が好

ましくは流出装置と一体になっていることを特徴とする、請求項 1 - 1 0 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 1 2】 第 2 本体部が 1 個又は 2 個以上の内側へ向く突起又はクリップを備えており、突起又はクリップは使用の際に、容器に設けられたそれぞれ孔又は窪みと共働して、装置と容器とを一体に保持していることを特徴とする、請求項 5 - 1 1 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 1 3】 流出装置がさらにタンパ機構を含んでいることを特徴とする、請求項 1 - 1 2 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 1 4】 タンパ機構が第 1 部分又は第 2 部分と第 2 本体部との間に設けられた脆いタンパ突起からなり、第 1 部分の最初の押圧が突起に剪断変形を起こさせることを特徴とする、請求項 1 3 に記載の流出装置。

【請求項 1 5】 装置がさらに脆い一時的な閉塞具を含んでいることを特徴とする、請求項 1 - 1 4 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 1 6】 脆い一時的な閉塞具が第 1 本体部と第 2 本体部との間にある少なくとも 1 個の脆いシールであって、そのシールは第 2 部分の押圧によって破壊されることを特徴とする、請求項 1 5 に記載の流出装置。

【請求項 1 7】 装置がプラスチックの成形体で作られていることを特徴とする、請求項 1 - 1 6 の何れか 1 つの項に記載の流出装置。

【請求項 1 8】 請求項 1 - 1 7 の何れか 1 つの項に記載の流出装置を含んだ容器。

【請求項 1 9】 容器が一体のハンドルを備えていることを特徴とする、請求項 1 8 に記載の容器。

【請求項 2 0】 流出孔が容器上に設けられていることを特徴とする、請求項 1 8 又は 1 9 に記載の容器。

【請求項 2 1】 容器が粘稠な液体又は流体を入れるに適していることを特徴とする、請求項 1 - 2 0 の何れか 1 つの項に記載の容器。

【請求項 2 2】 液体が液状の炭化水素であることを特徴とする、請求項 2 1 に記載の容器。

【請求項 2 3】 液状の炭化水素がエンジンオイルであることを特徴とする、請求項 2 2 に記載の容器。

【請求項 2 4】 容器を片手で持ち、容器の内容物の少なくとも一部を流出させるために容器を傾けている間、その手の親指その他の指で第 1 部分を押圧し、次いで第 1 部分を放すことからなる、請求項 1 8 - 2 3 の何れか 1 つの項に記載の容器から内容物を流出させる方法。

【請求項 2 5】 第 1 部分を放すと、第 2 部分が最初の非流出状態に戻り、それによって容器を閉じることを特徴とする、請求項 2 4 に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

さらに、公知の容器は、通常 2 個以上に分離できる部分、例えば流出孔を備えている本体と、ねじ蓋のような取り外しのできる蓋とからなる流出装置を用いている。取り外しのできる蓋が流出装置から取り外されると、蓋を置き忘れることが起こる。また、公知の容器は、流出を容易にするために、両手の使用を必要とすることが多い。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 5 】

第 2 部分は、シール機構を持ち、そのシール機構は、第 2 部分が最初の状態にあるときに、この装置と流出孔との間にシールを形成する。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 6 】

第 1 の実施例では、流出孔がこの装置上に形成されていないで、容器上に設けられている。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 7 】

第 2 の実施例では、流出孔が第 2 本体部上に形成されている。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 6 0

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 6 0 】

第 1 図ないし第 7 図を参照すると、この発明の流出装置の第 1 の実施例が示されているが、そこではこの発明の装置全体が 5 a で示され、装置が容器 1 0 a に取り付けられている。流出装置 5 a は、後方の第 1 部分 1 5 a と、前方の第 2 部分 2 0 a と、装置 5 a を容器 1 0 a と一体に保持するための手段とからなり、そこでは最初の非流出状態 A では第 2 部分 2 0 a が容器 1 0 a と気密に接続しているが、使用に際して第 1 部分 1 5 a を押圧すると、第 2 部分 2 0 a の少なくとも一部が最初の状態 A から第 2 の流出状態 B へ移行する。

【 手 続 補 正 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 5 】

装置 5 b は第 2 部分 2 0 b と第 2 本体部 4 5 b 上にタンパバンド 1 2 0 b を備えており、それは装置 5 b が初めて使用されるときに破壊されるが、第 2 部分 2 0 b 上に戻される。

【 手 続 補 正 8 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 6 】

最後に、第 1 1 図ないし第 1 6 図を参照すると、そこには容器 1 0 c に取り付けられたこの発明の流出装置 5 c の第 3 実施例が示されている。装置 5 c の各部分は、第 1 実施例の装置 5 a で用いられているのと同じ数字によって確認することができるが、そこでは「 a 」の代わりに「 c 」があとに付けられている。

